

新会長に就任して

岸 道 三



この度オペレーションズ・リサーチ学会の会長をお引受けすることになりましたので、会員の皆様に御挨拶申し上げます。前会長の厚母さんは皆様がよく知っておられるように、ORの研究の第一線に立っておられ、鉱山関係のORの委員長もなされたし、全くOR学会の会長としてふさわしい方でありました。

その後をお引受けするなどとても私には出来ないと度々辞退しましたが、どうしてもやれといふことで会長をつとめることになった次第ですから、どうぞ宜しくお願いします。

ORについては未だよく勉強しておりませんが、私なりに考えていることを述べて会員の皆様の御批判を仰ぎたいと思います。ORはいろいろ長所があるので短時間にこれだけ発達したのでしょうか、私はその中で次の二つが一番大事なことだと信じています。それは第一に全く雑然と見える現象でも、その中に横たわる規則性を何とかして見出し、それに対する解答を用意する科学的な態度と考え方の柔軟さ、第二には今次の戦争中英国で行われた爆撃機に対する防禦の問題に対する研究がグループとしてなされ、そのグループには無線技師、生理学者、数理物理学者、天体物理学者、陸軍士官、測量技師が含まれていた、すなわち専門の違う分野の人々が、他の人の意見を尊重し、協力して研究が完成されたことであります。

私は現在日本道路公団の総裁として日本の道路の建設に従事しておりますが、公団は昭和31年に発足し、その構成メンバーは役所出身の人、民間出身の人、しかもその経歴は各人各様で、これ等の人々の歩調をどうやって揃え、時代の要求に合うように能率をあげるか、その方法を考えた結果、その一法として中堅職員にORの勉強をして貰うことにしました。ORの勉強が滲透すれば上下の意志の疏通とか、横の協力、あるいは能率の向上等は自ら達成出来るかと確信したからです。

それから4年の年月が過ぎまして現在営業中の43路線、駐車場1ヶ所、工事中の道路は名神高速道路をはじめ15路線を数え、職員各人が用地の問題その他いろいろの困難を克服しながら能率をあげてくれているのも、ORの勉強がある程度効果があったのではないかと手前味噌ながら考えています。

しかし忙しい業務のままにORの研究そのものが活発とは言いきれない状態なので会員の御指導を得て日本のオペレーションズ・リサーチの研究を大いに発展させて、日本の産業の為に大いに働きたいと思っております。